

ひなぎくの森

第6話
文*sawori

「いやー、助かったよ！」

フランソワは何故かこのクリスマスイブにエバグリを手伝っている…しかも何故か松山店長と気があっている…

「フランソワが映画好きだから、プレゼントコーナーの映画の棚も充実したし、かなり売上アップだヨー！しかもユー・ガット・メール？これをリストに入れるとはね〜」

「ベタでもとても良い映画です。」

「そーなんだよー、映画好きってさ、レアなの言いたいじゃん？でもこーゆうベタベタなもさ、例えばフォレスト・ガンプとかもさ、俺何回も見て泣いてるし。クリスマスキャロルとかも毎年見て己の行動の自問自答してるし、グレムリンなんて？めっちゃカワイイじゃん。」

「グレムリンのDVDにぬいぐるみ付けたの店長ですか？素晴らしい」

「わかるー？！で、あれもさー…」

というやり取りがかれこれ2時間は続いている。まあ、いいけど。

「あ、今何時？やば、花屋開まっちゃうな。ちょっと店任せた。」

店長がコートも着ないで慌てて店を出た。

「花屋？」フランソワが不思議そうに私に聞いた。

「うん、毎年クリスマスイブ恒例。」そう言って俯いた私の顔をフランソワが覗き込む。すると店の前を大きな花束を持って通り過ぎていく松山店長が見えた。

「あ、あれでんちよー…すごい大きい花束持って…え。どこへ？」

「街角ブックの小桃さんのとこ。あれ、デージーの花束。小桃さん、ユーガットメールの本屋さんに憧れて絵本屋さん開いたの。だから映画に出てくるデージーの花束をね、毎年クリスマスイブの夜にプレゼントしに行くの。」

「それって、2人は付き合ってるってことですか？」

「店長いわく、同じ商店街の同士だからってことだけど…」

「ふう〜ん…（ひなぎく、わかりやすいです。てんちよーが好きなんですね。）」

「ひなぎく、これクリスマスプレゼントです。」

「わ！なになに？開けていい？…あ、「ひなぎく」のDVD！嬉しい！」

「ひなぎくを最初に見たとき、僕のマリエを見つけたと思いました。とても美しかった。」

BGMがちょうど曲間で途切れ、一瞬の沈黙。

「ま、またまたー、もう本当に発言が王子だなあ、フランソワはっ！」

BGMが次の曲、定番のワムのラストクリスマスを鳴らす。

あ、焦った〜、フランス王子のセリフにいちいちドキドキしてたら身が持たない。

「oh mon dieu…（日本の女の子へのアプローチの仕方イマイチわかりません）」

うな垂れるフランソワ。

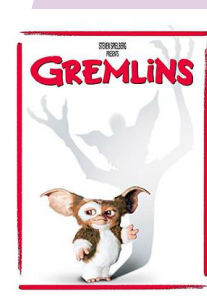
次号へ続く…

* ひなぎくの森のカルチャーその6 *

クリスマスのベタな映画特集



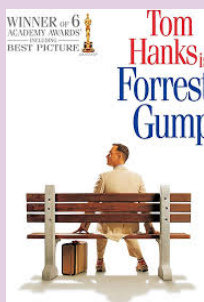
「クリスマスキャロル」
お金にめがつい偏屈な老人のもとに遣わされた3人の天使。過去・現在・未来の自分を見て心を入れ替えて良い老人になってハッピーになるというお話。



「グレムリン」
クリスマスプレゼントに怪しい中華街のお店で買った可愛いモグワイ。水をかけてはいけないという忠告を無視してエライことに。



「34丁目の奇跡」
サンタを信じない現実主義のシングルマザーが「私はサンタだ！」という老人と出会い心をほぐしていく優しいストーリー。



「フォレスト・ガンプ 一期一会」
フォレストの濃厚な人生録。生と死、愛情とは？フォレストの純粋な心が光る名作。

「ユー・ガット・メール」「街角桃色の店」
恋心を抱いているメル友が、実はライバル会社の大嫌いなあの人！でもやがて恋に落ちる、大好きな映画。「街角桃色の店」はユーガットのオリジナル。こちらも可愛い。

エバグリ松山店長と臨時バイトフランソワのクリスマスベタ映画談義に出てきたクリスマス映画をまとめてみました！メリー・クリスマス！

（前回までのあらすじ）フランス人留学生フランソワと、レコード店員ひなぎくのカルチャー交流記。ひなぎくの働くエバグリ松山店長はひなぎくの憧れの人。離婚して辛い時期も前向きな店長の考え方に幼いひなぎくは恋心を抱く。クリスマスにひなぎくを誘ったフランソワだが何故かエバグリでバイトすることに。

* sawori*